

氏名(本籍) 星野 都 (千葉県)  
学位の種類 博士(歯学)  
学位記番号 乙 第611号  
学位授与日 2015年3月26日  
学位授与の要件 博士の学位論文提出者(学位規程第11条第3項該当者)  
学位論文題目 口腔顎顔面領域の角化性嚢胞状病変におけるサイトケラチンおよびランゲリンの発現比較  
論文審査委員 (主査)教授 坂下 英明  
(副査)教授 草間 薫  
(副査)教授 大森 喜弘  
(副査)教授 天野 修

### 論文内容の要旨

口腔顎顔面領域の角化性嚢胞状病変の裏装上皮の相違について、①口腔領域および皮膚に生じる類皮嚢胞 (dermoid cyst: DMC)と類表皮嚢胞 (epidermoid cyst: EDMC)との比較、②口腔領域に生じる DMC, EDMC と顎骨に生じる正角化性歯原性嚢胞 (orthokeratinizing odontogenic cyst: OOC) との比較、③発育性嚢胞である OOC, 含歯性嚢胞 (dentigerous cyst: DC) と腫瘍性嚢胞状病変である角化嚢胞性歯原性腫瘍 (keratocystic odontogenic tumor: KCOT) との比較を行った。各種サイトケラチン (CK) に対する免疫組織化学的検索に加えて、DMC, EDMC および OOC の裏装上皮が皮膚に類似した構造を示すことから、Langerhans 細胞の局在を検討する目的で、そのマーカーであるランゲリンに対する免疫組織化学的検索も行った。なお、角化性嚢胞状病変の対象として裏装上皮が非角化の DC を用いた。①の検索結果は、ほぼ同様で、発生部位による違いは認められず、裏装上皮における分化の方向性は同じであると考えられた。②の検索結果は、CK13 と CK17 で差異を認め、発生由来の違いが考えられた。また、正角化性の3病変ともにランゲリン陽性細胞を認めた。口腔領域に生じる正角化性嚢胞状病変の裏装上皮では、皮膚や粘膜と同様に、Langerhans 細胞が存在すると考えられた。③の検索結果は、CK10, CK17, CK19 で差異を認めた。各病変のうち、CK10 は裏装上皮が正角化である OOC に発現が顕著に認められた。KCOT では CK17 に対する陽性反応が裏装上皮全層にみられ、OOC, DC では、基底層を除く全層で認められた。歯原性上皮のマーカーとして知られている CK19 は、OOC ではその発現が認められなかった。また、KCOT では Langerhans 細胞はほとんど認められず、OOC との違いが示された。

以上のことから、DMC, EDMC, OOC および KCOT の裏装上皮における CKs の発現様式にそれぞれ違いがあった。また、正角化に伴って Langerhans 細胞が出現することが示された。

### 論文審査および試験結果の要旨

本研究は、DMC, EDMC, OOC および KCOT の裏装上皮について、免疫組織化学的検索を行い、DMC, EDMC では、発生部位が異なっても CK, ランゲリンに対する反応様式は皮膚と同様との結果を得た。また、歯原性、非歯原性かで分化の方向性に違いが認められ、DMC, EDMC, OOC および KCOT は、それぞれ独立した疾患であることが示唆された。さらに、顎骨中心性の病変である OOC の裏装上皮に Langerhans 細胞の存在を認めることは新知見であった。申請者 星野都に対する最終試験は、2015年1月22日、主査 坂下英明教授、副査 草間薫教授、大森喜弘教授、天野修教授 4名により、主論文の内容に関する種々の事項について口頭試問によって実施し、また、語学試験は、関連文献の英語読解力について口頭試問を実施し、いずれも合格と認めた。よって申請者 星野都は、博士(歯学)の学位を授与されるに値するものと判断した。